

地方研究会活動報告



佐賀県品質工学研究会 30 周年記念 「品質工学講演会及び事例発表会」の報告

平井 智紀

Tomonori Hirai

1. はじめに

佐賀県品質工学研究会は1992年2月の設立から今年30周年を迎えた。それを記念し、2022年3月10日（木曜日）に「品質工学講演会及び事例発表会」（以下、本講演会）を開催したので、その様子を紹介する。

本講演会はオンライン会議ツールのWebex（CISCO社）を用いて開催した。オンライン開催としたことから、近隣だけでなく全国から申込があり、講演者や発表者を含めた24名が参加した。当研究会では、品質工学の魅力を広く伝えるため、設立の翌年から2019年度まで会員が品質工学を活用した技術開発、工程や品質の改善等を行った成果を一般に公開してきた。しかし、会員企業の都合により事例発表が難しくなり、また会員の入れ替わりにより品質工学初心者が大半を占めるようになったことから成果発表会を中断していた。今回、記念の年を迎えたことから、改めて品質工学に興味を持ってもらう目的で、過去の取組事例を中心にプログラムを構成した。

はじめに当研究会の設立者である田中久がこれまでの研究会の歩みを中心に講演を行い、その後3件の取組事例の発表があった。最後に、当研究会の設立から30年に渡ってご指導いただいている石田一が特別講演を行った。以下に主な内容を記載する。

2. 講演 佐賀県品質工学研究会 30 周年を振り返って

—我が人生最大の幸運は、品質工学と出会えたこと—

一般社団法人佐賀県計量協会 田中久

品質工学との関わりは、佐賀県工業技術センターで勤務していた1982年に3か月間の工業技術院計量研究所（現・国立研究開発法人 産業技術総合研究所）での技術研修において、矢野宏博士にSN比について直接指導を受けたことに始まった。その後、品質工学を用いた研究や佐賀県企業の直接指導を経て、矢野宏博士の勧めもあり1992年2月に品質工学研究会を立ち上げた。翌年からは研究会独自の発表会を開催し、自ら担当した2011年までに90件の事例を公開してきた。この間、指導した企業の成果や研究会の活動を報道機関等に売り込み、地域での品質工学の認知度を上げることに力を注いだ。

また、工業技術センターを退職して10年以上経過しているが、現在でも招聘研究員、非常勤講師等の活動に従事できるのは、品質工学に出会えたおかげだと深く感謝している。この後、品質工学を普及する際に行った説明や使用した資料を紹介する。（中略）

最後に、佐賀県の研究会の今後について提言する。発足以来、工業技術センターの職員が主導する形で開催しており、毎年参加企業や参加者が異なっている。全国の地方研究会と同様に地域企業が主導する研究会が理想である。一方、現状は核となる（地域に影響力がある）企業が見当たらない。理由として